

「私の歩んだ人生～教師と画家の二足のわらじを履いて～」

日本芸術院会員 根岸右司さん（本学卒業生）が 平成 30 年度埼玉大学入学式で特別講演

Vol. 15
May 2018

4月4日の埼玉大学入学式に、北の大地の厳しい自然を題材にした油絵で”雪景色の名手”として知られ、また、高校の美術教師を長年にわたり勤められた洋画家の根岸右司さん(1961年教育学部卒)をお招きし、新入生1,646名に向けた特別講演を行いました。



2015年 改組 新 第2回日展内閣総理大臣賞受賞「北海の岬」
2017年 第73回日本芸術院賞受賞
(改組 新 第3回日展出品作「古潭風声」に対して)
日本芸術院会員就任
現在、日展理事、光風会副理事長

美術教師を目指して教育学部に入学、 生涯の師との出会い

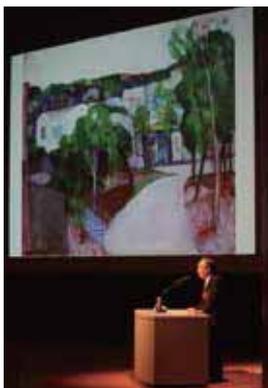
はじめに、根岸さんご自身の学生時代を振り返り、「私が大学に入学した頃はとても不景気で、学生は皆貧しかったが、卒業までの4年間を過ごした男子寮で他学部の仲間と寝食を共にした経験がその後の人生に大変役に立った」と語りました。「三食を70円で賄うなど生活が苦しかった」ことや、「学生寮が元は兵舎で、自分の部屋は納骨部屋であったと聞かされ、仲間と供養した」などのエピソードも交え、埼玉大学で過ごした日々を懐かしみました。

大学へは好きな油絵を描きたいとの思いで入学したが、美術の授業は週2回しかなく、物足りなさを感じていたところ、講師として来られていた東京藝術大学美術学部の渡邊武夫先生との出会いがその後の人生を決定づけたそうです。「文展（現日展）で特選を取るほど優秀な先生に埼玉大生が教を請うことは身分不相応と思っていた」ことや、「指導が厳しく、授業の前の晩は眠れないほどのプレッシャーを感じていたが、それは自分の実力がないからだ」と恩師との思い出を振り返り、「その厳しさに耐えられればきっとこの先未来が開ける」との思いで努力した結果、卒業した年の日展で入選を果たすことができたと言いました。

県立高校の教師と画家の 二足のわらじを履いて

大学を卒業し県立春日部女子高等学校の教師となった後も、様々な美術展に出展し賞を受賞するなど順調に歩んでいた根岸さんでしたが、その頃、当時の校長先生から勤められて留学をしたそうです。横浜港を出発後、北海道、モスクワを

經由してヨーロッパに到着し、2ヶ月の滞在中にスペインのプラド美術館で観たゴヤやルーベンスの素晴らしい名画に感銘を受けたまでは良かったが、その結果、帰国後に「自分が何を描いて良いのかわからなくなり、絵が描けなくなってしまった」こと、「日展に出展するも3年連続落選し、仕舞いには日展へ出展する動機すら見失ってしまった」と苦悩した時期があったことを語りました。転機となったのは県立浦和高等学校に転任したこと。「生徒の何事にも意欲的な姿に向き合うことにより、教員としての自分の価値観・教育観を見直すきっかけとなった」、「画家としてはか



▲ 講演する根岸さん



▲ 県立浦和高等学校での美術の授業風景 中央左 根岸さん

つて留学の途中に訪れた北海道の景色を描きたいと思い、春休みを利用しては北海道に行き、慣れないレンタカーを運転し描き続けたことを振り返るとともに、「美術教室で絵の勉強をして、たくさんの絵を描くことができた」と浦和高校への感謝の気持ちを繰り返し述べていました。

最後に根岸さんは、「今、皆さんは無事にご入学され希望に満ちていると思いますが、卒業後どのような進路に進み生きて行くのか、何に生きがいを感じ、どのようなことで社会に奉仕していくのか、仲間と生活の中で考えていくことが大事です」と後輩たちへエールを送りました。

2 教育 平成 29 年度大学院修了式・卒業式を挙 行 2,175 名が社会へ巣立つ

平成 29 年度大学院修了式を 3 月 23 日、卒業式を同 27 日に挙りました。3 研究科および 5 学部から合計 2,175 名がキャンパスを巣立ちました。卒業式では、山口宏樹学長が学位記を代表者に授与し、「社会の中で生きていくには、論理を考え出すことに加えて、閃きの直感力が重要です。知のプロフェッショナルとして、グローバルに、イノベティブに活躍することを祈っています」と激励しました。また、本学理学部を卒業し、2015 年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの栄誉を称え、次世代の若手研究者の育成を目的に設立した「梶田隆章賞」の授賞式も行いました。



卒業式の様子▶

3 教育 「梶田隆章賞」を卒業式で授与 次世代の若手研究者育成を目指して

「埼玉大学梶田隆章賞」授賞式を平成 29 年度卒業式において開催しました。梶田隆章賞は、本学理学部物理学科を卒業し、2015 年ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの栄誉を称え、同氏に続く次世代の若手研究者の育成推進を目的として設立されました。

平成 29 年度は理学部の赤羽裕太さんを受賞者として決定し、平成 29 年度卒業式において、山口宏樹学長から表彰状(クリスタル盾)及び副賞が授与されました。受賞した赤羽さんは「賞を頂けたのはひとえに 4 年間支えてくれた家族や友人、教職員の方々をはじめ、多くの方の支えのお陰だと思っています」と感謝の気持ちを伝え、「大学卒業後は本学の大学院に進学し、梶田先生の名に恥じぬよう、研究に邁進したい」と抱負を話しました。



▲ 山口学長より表彰状(クリスタル盾)を授与される赤羽さん
平成 29 年度卒業式にて

4 教育 学生表彰式を実施 顕著な学修成果やスポーツ活動を称えて

3 月 7 日、平成 29 年度第 2 回の学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は、学術研究において成果を挙げた学生 16 名および 1 団体、課外活動において成果を挙げた学生 1 名に対して、山口宏樹学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▲ 山口学長を囲んでの記念撮影

5 教育 144 名がリーダーの本質を学ぶ 学生サークル代表者向け研修会を開催

2 月 6 日及び 8 日、各サークルの主将などを対象に、リーダーシップトレーニング研修を開催しました。この研修は、リーダーとしての資質向上を図ることを目的に、年 2 回実施しています。今回は、キャリアコンサルタントで本学就職相談員の宮内正臣氏を講師に招き、リーダーの役割や傾聴技法、フィードバック技法などについて、講義やグループワークを実施。2 日間で、文化系・体育系サークルの代表 127 団体、144 名が参加しました。参加した学生からは「人や組織、タイミングによって、様々なリーダーシップが存在することがわかりました」「相手の立場に



立って話を聞けるようになりました」「フィードバック技法が、現在サークル内にある問題のひとつの解決になりそうなので聞いて良かったです」などの感想が寄せられました。

◀ 熱心に聴講する学生たち

6 教育 2019 年春卒業・修了予定者向けの就職支援を開始 校内企業説明会には 320 社以上が参加

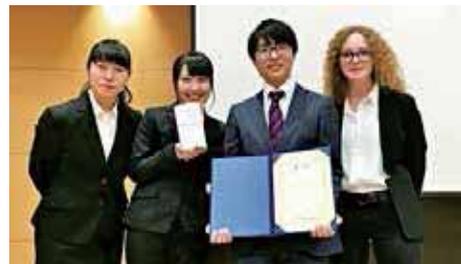
3 月 1 日～ 9 日に、埼玉大学統合キャリアセンター SU では、2019 年春卒業・修了予定の学生を対象に、学内合同企業説明会を開催しました。説明会には、県内外の企業 326 社が集まり、のべ 6,122 名の学生が参加しました。各企業のブースでは、会社概要、業務内容、採用スケジュールなどの説明が行われ、ブースを訪れた学生たちは、人事担当者の説明に熱心に耳を傾けていました。また、本学 OB・OG が参加した企業もあり「実際どのように活躍をされているのですか?」など、学生は自分の描く将来像を重ねながら自分に合った企業を見つけようと質問していました。また、これに先立ち 2 月 9 日には「自己分析・自己 PR 対策」「業界研究・志望動機対策」「面接・グループディスカッション対策」をテーマとした、就活総復習集中セミナーが開催され、406 名の学生が参加しました。



▲ 各企業の説明を熱心に聞く学生たち

7 教育 経済学部川端ゼミのチーム「100%Asian」が最優秀賞受賞! 中小企業のための「知財を活用した商品アイデア創出事業」in 埼玉

12 月 6 日、一般社団法人さいしんコラポ産学官が主催する「中小企業のための『知財を活用した商品アイデア創出事業』in 埼玉」が開催されました。埼玉大学を含む 4 学校の 7 チームが、大手企業や公的研究機関が保有する開放特許を活用して、事業化へ向けたアイデアを提案しました。本学からは経済学部の川端庸子准教授のゼミ生 4 名で構成されたチーム「100%Asian」が出場し、富士通株式会社の開放特許「芳香発散技術」を活用した新商品を提案して、見事、最優秀賞を受賞しました。なお、本学チームを含め、表彰された 3 チームは 3 月に開催された東京、埼玉、静岡地区代表による「知財活用スチューデントアワード」に出場しました。



▲ 「100%Asian」のメンバー

8 教育地域 学生が考案したアイデアお弁当が商品化！ JR大宮駅エキナカのショップと共同開発

教育学部の学生が考案したレシピをもとにエキュート大宮の洋風総菜店「イーショベジプラス」と共同開発したお弁当が商品化されました。レシピは、上野茂昭准教授が担当する栄養学の講義の受講生80名から提出されたレシピ案から2名のアイデアを採用し、企画会議において、主菜・副菜の彩りや味付けのバランスなどの議論を行い商品が完成しました。県産食材と豊富な野菜を使っており、レシピが採用された学生は「春らしく、見た目も華やかで、ボリューム満点なお弁当をご賞味ください」とPRしました。JR東日本大宮支社と2015年に締結した「埼玉大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成などにに向けた包括協定」に基づき取り組みで、お弁当販売は昨年秋に続く第二弾となりました。



◀ アイデアを考案した教育学部の高橋さん(左)と河口さん(右)

9 教育地域 次世代を担う人材育成に産学協働で取り組む 埼玉県課題解決型インターンシップ成果報告会を開催

3月2日、インターンシップを通して県内企業と大学生がともに企業の課題解決に取り組む「埼玉県課題解決型インターンシップ事業」の成果報告会を大宮ソニックシティで開催しました。昨年の夏より3ヶ月～半年にわたり、県内15の企業でインターンシップを行った学生たちが、企業から示された課題の解決方法を発表しました。報告会では、「魅力的なリクルート戦略の企画・提案」などの課題に取り組んだ苦労談など



も紹介されました。参加した学生からは「課題解決を通じた就業体験により、“働く”とはどういうことなのか具現化できた」といった感想が寄せられました。

◀ 実習報告をする学生たち

10 研究 報道各社と「埼玉学術懇話会」を開催 大学の戦略や特色ある研究を発表

3月15日、埼玉県記者クラブに加盟する報道各社と「埼玉学術懇話会」を開催しました。当日は報道関係12社の支局長と記者など約40名が参加し、大学の動向や研究成果の紹介、情報交換を行いました。山口宏樹学長から本学の三つの戦略である①地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成、②地域ニーズに即した人材育成と教員養成、③強みを有する分野の国際教育研究拠点化を提示し、それぞれの実績と構想について話しました。続いて、5名の教員が研究発表を行いました。その後、大学の今後の動向や、研究活動に対する質問など、報道関係者との意見交換を行いました。



発表を聞く報道関係者 ▶

11 研究 英語による研究発表の発信力を高める 「英語プレゼンテーションワークショップ」を開催

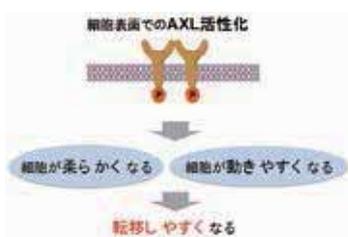
2月8日、研究機構URAオフィスは、David Kipler氏を講師として「英語プレゼンテーションワークショップ」を開催しました。本ワークショップは、本学の研究力強化を目的としており、受講者は英語による研究発表の準備の仕方とコツを実践的に学びました。前半は発表の準備についての講義を、後半は実際に受講者が英語でプレゼンテーションを行い、その内容について議論しました。ワークショップには、教員や研究員など23名が参加し、「自分もプレゼンテーションの公開指導を受けたい」といった感想が寄せられ、大変有意義なワークショップとなりました。



▲ ワークショップの様子

12 研究 がん細胞を軟化させて転移を促進する因子を同定 (理工学研究科 菅沼雅美教授 共同研究)

理工学研究科戦略的研究部門の菅沼雅美教授、吉川洋史准教授、小林成真助教、及び飯田圭介研究支援者(現千葉大学助教)の研究グループは、がんの細胞を柔らかくすることで転移しやすくする因子AXLを発見しました。柔らかい細胞は転移しやすい傾向があるため、細胞の硬さの測定はがん転移能を予測するための新しい方法として注目されています。



▲ AXLは細胞を柔らかくすることでがんの転移を促進する

ですが、これまで細胞を柔らかくして転移を促進する因子が知られていませんでした。今後この成果により、細胞の硬さが変化するメカニズムの解明および正確に転移能を診断する方法への発展が期待されます。

13 国際 日本人学生が留学生をおもてなし 「埼玉学のすすめ」バスツアーを実施

12月9日、本学とグローバル人材育成センター埼玉との共催で、日本人学生が埼玉県を紹介しながら、留学生をおもてなしするバスツアー「埼玉学のすすめ」が開催されました。当日は、県内在住の留学生28名、留学経験のある日本人学生19名がツアーに参加し、動物や食べ物などのユニークな形の消しゴムを製造販売している株式会社イワークでの工場見学、埼玉スタジアム2002(にまるまるに)でのバックヤードやメインピッチの見学、草加煎餅を製造販売している丸草一福では手焼き煎餅体験などを行い、外国人留学生・日本人学生の交流を図りました。



◀ 埼玉スタジアム2002スタジアムツアー

14 国際 留学生が着付けや髪結いで華やかに さいたま観光国際協会主催イベントで

さいたま観光国際協会主催の着物着付け体験会が1月7日に開催され、本学の留学生7名が参加しました。振り袖や袴の着付け、髪結いなど本格的な和装と初詣体験ができることから毎年留学生に人気のあるイベントです。大宮の氷川神社で、着物をまとった留学生は、茶道や風呂敷包み、初詣などの

日本文化を体験しました。男子学生は袴を、女子学生は着物の着付けに合わせた日本らしい髪結いを髪飾りやかんざしなどで華やかに彩ってもらい、その美しさに感動していました。



▲ 華やかな着物を身にまとう参加者たち

15 国際 教養学部生 6 名がラオスでさいたま市や日本文化をPR!! 外務省派遣事業「JENESYS2017」

本学は外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」に採択され、教養学部生 6 名が 2 月 20 日から 28 日までラオスに派遣されました。参加学生は、ラオスの大学を訪問し、学生と交流するほか、さいたま市や日本文化を PR。出発までの 5 ヶ月間、発表のために話し合いと自己学習を進めてきました。また在ラオス日本国大使館やラオスで活動する日本の

NPO を訪問し、ラオスにおけるソーシャルビジネスの現場を理解し、また一般家庭でのホームステイを経験することで、草の根レベルでの日本とラオス間の信頼関係を築くことができました。



▲「JENESYS2017」に参加した本学教養学部生

16 産学官 女性研究者が活躍しやすい環境づくりに取り組む

パネリストの方々▶

2月5日 埼玉大学と埼玉県が連携して立ち上げたプロジェクト「**彩の国 女性研究者ネットワークキックオフセミナー ～埼玉大学ダイバーシティ研究環境実現に向けて～**」を開催しました。

第一部では、山口宏樹学長と上田清司埼玉県知事、文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課人材政策推進室長の石丸成人氏の挨拶の後、沖縄科学技術大学院大学男女共同参画 人事担当副学長を務めるマチ・ディルワース氏による基調講演「無意識のバイアスと女性研究者活躍推進」が行われました。

第二部では、埼玉県内の研究機関と企業で活躍する女性研究者 5 名、そして本学理工学研究科の川合真紀教授をパネリストに迎え、パネルディスカッションを開催。それぞれの組織で進めている女性研究者活躍推進の取り組みについて意見交換を行い、大盛況の内に幕を閉じました。



2月6日 埼玉県主催、埼玉大学男女共同参画室共催による「**女性技術者・研究者による理工系女子応援講座**」が本学にて開催されました。

この講座は、埼玉県内に拠点を有する研究所や企業から理系出身の女性技術者・研究者を招き、現在の仕事に就くまでの経緯や働き方について女子大学生の疑問に答えるものです。

また講座の後半では、参加学生が 3 グループに分かれ、登壇者と直接話をする交流会を実施しました。学生からは「学生時代に学んだことが現在の仕事にどう役に立っているのか?」などの疑問や就職活動に対する悩みが投げかけられました。講座終了後には「理工系の女性技術者・研究者の仕事を知る良い機会になった」などの声も聞かれ、充実した機会となりました。

2月7日 「**彩の国 女性研究者ネットワーク訪問セミナー**」を開催し、19 名の学生が埼玉県立がんセンターを訪問しました。セミナーでは、埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所長で、本学大学院理工学研究科の連携教授を務める上條岳彦氏の話のほか、本研究所で研究に携わっている埼玉大学理工学研究科の大学院生 2 名の話やプログラムもあり、学生たちは研究所での生活や研究を続ける醍醐味について具体的なイメージを持つことができました。

2月8日 同じく「**彩の国 女性研究者ネットワーク訪問セミナー**」が開催され、埼玉県環境科学国際センターを訪問しました。センターの概要説明や施設見学に引き続き、研究者の方に参加学生たちが直接質問できる「何でも相談会」が実施され、ご協力いただいた研究者の方々には、参加学生からの様々な質問にお答えいただきました。研究者に憧れる学生たちにとって、今をどう過ごすべきかを考える上で大きなヒントになったことは間違いありません。



▲埼玉県立がんセンターの客員研究員を務める本学の菅沼雅美教授が原子間力顕微鏡の説明を行う様子

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成 25 年 11 月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかきご支援をいただいております。

平成 28 年には、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的とした、特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、右図のとおり構成となっております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。また、不要となった本や DVD をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませよう願いたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/) から「3. 古本募金」をご参照ください。

目的 1	特定重点事業の推進 埼玉大学国際化推進事業 (国際学生寮) 新設事業	埼玉大学創立 70 周年 (平成 31 年度) 記念事業
目的 2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援	
特定基金	埼玉大学修学サポート基金 経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援	

◆埼玉大学基金のご報告

平成 30 年 3 月末の状況 **361,427,805 円**

うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **455,589 円**

